

## 《最優秀賞》

「語り継ぐ戒石銘」

二本松第一中学校 一年 佐々木 南緒

感謝の気持ちを表す戒めが刻まれた大石が、私の生まれた二本松市にある。その大石は「旧二本松藩戒石銘碑」という。これは、今からおよそ二百七十年前の二本松藩主、丹羽高寛公が、藩儒学者の岩井田昨非の進言により、藩士の戒めとするため、刻ませたものだ。

「お前の給料は、民があぶらして働いたたまものより得ているのである。お前は民に感謝し、いたわらなければならぬ。この気持ちを忘れて弱い民達を虐げたりすると、きっと天罰がくだるだろう。」と四句十六字で刻みこまれている。

戒石銘は、二本松藩政に大きな影響を与え永く高揚させた。戊辰戦争で活躍した二本松少年隊の行動も、戒石銘に基づいたものかもしれない。

私は、戒石銘の人に感謝をしていたわるといふ教えに感銘を受けた。人はとかく自分のことに精一杯で、周りの人に感謝をすることを忘れがちだ。私自身、今まで感謝の言葉を人に伝えることが少なかった。今までを振り返ると、私はたくさんの人々に支えられてき

た。

私が生まれたのは、十二年前の東日本大震災が起きた日から、わずか六日後だった。その頃は物流も滞り、赤ちゃんに必須のミルクや紙おむつも地元の店ではなかなか手に入らなかった。そんな時に、関東に住んでいる親戚の方や、父の職場の方が気遣って、それらを買って届けてくれたそう。こうしたことから、私はここまで成長することができた。

そして現在、私は中学校の卓球部に所属している。活動には、指導者や対戦相手、大会を運営してくれる人など、たくさんの人達が携わっている。その人達のおかげで、私は楽しく卓球の技術を身につけることができています。また、困った時は家族や友達がそばで助けてくれたり、励ましてくれたりする。

他にも、多くの人に助けられ、支えられている、例えば、学校で学べる事も、毎日食事をとれる事も、健康で過ごせている事も、全て先生や学ぶ環境づくりに携わっている人、農家の人や食品を作って販売している人、医者や保健に関わっている人のおかげだ。人はひとりでは生きていけないことにつくづく気づかされる。今まであたり前と思っていたことは、実はあたり前のことではない。だからこそ、日頃から感謝の気持ちをおぼれないうで、伝えることを大切にしたい。

戒石銘という素晴らしい教えを二本松に伝えた岩井田昨非は、刑

律では残虐な刑罰を禁止し、藩士の教育普及にも力を注いだといわれている。このような「済民」の志をもつ岩井田昨非は、とても偉大な人だと思う。当時なら、武士が領土を守っているという立場から、民に対して横柄な態度をとっていてもおかしくないと思うが、岩井田昨非のように儒学などを学ぶことによって、物の見方が変わってくる事がある。見聞を広げることが、人々のために世の中を変える事にもつながると知った。私も、これからもっとたくさんの事を学び、人に優しく、世の中の役に立つ人になりたいと思った。

世界には、戦争や紛争などで自由を奪われ、苦しんでいる人がたくさんいる。世界中の人々が、戒石銘の教えである、感謝の気持ちと人を虐げずにいたわる心を持つことが出来たなら、争いのない平和な世の中になるのではないだろうか。私は、この戒石銘碑が二本松にあることを誇りに思う。二本松から世界へ、戒石銘の教えを広めることが出来たら素晴らしいことだ。この教えは、後世にも伝えていきたい。そして、私自身この教えを胸に、勉学に励み、これからの人生を一步一步大切に歩んでいきたい。